

# No.60 2012.7.10 contents

- 1 …祝、公益財団法人移行
- 2 … 功労賞表彰式開催~おめでとうございます~
- 4 … 公益財団法人埼玉県サッカー協会・各委員長 JFA47都道府県協会訪問会議開催 2014 FIFAワールドカップブラジルアジア最終予選開催
- 5 ··· "Live Your Goals" Girls Festival 中学校女子サッカー部フェスティバルに参加して
- 6 … 対談 「埼玉を強くしたい」 河本弘×田中龍太郎 9 … 記録
- 12…インフォメーション・編集後記



●発 行/発行人: 会長・相川宗一 編集人: 荒川裕治 ●発行所/(公財) 埼玉県サッカー協会 住所: 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和 1-21-18 シャトー雁ヶ音 204号室 Tel 048 - 834 - 2002 · Fax 048 - 834 - 2004 http://www.saitamafa.or.jp/

# 祝、公益財団法人移行

財団法人 埼玉県サッカー協会は新たに「公益財団法人 埼玉県 サッカー協会」として前に進んでいきます。

日頃は公益財団法人 埼玉県サッカー協会の事業に対し、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。活動や運営を支えて下さいます関係者全ての皆さまのご尽力に対し、ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から1年が経ちました。被災地の復興にはまだ長い時間が必要と感じています。被災した方々に心からお見舞い申し上げると共に一日も早い復興をお祈りしております。公益財団法人埼玉県サッカー協会では今年も引き続き復興支援活動に取り組んでいく所存です。活動には皆さまのご理解とご協力が必要です。どうか復興のためにお力添えくださいますようお願い申し上げます。

さて、埼玉県サッカー協会は理念の実現のため、協会組織としての充実を図るべく、これまで数年間をかけて、今年4月からの公益財団法人を目指して準備をしてまいりました。この度、埼

## 会長 相川 宗一

玉県より認定をいただき、本日、4月1日から新たに公益財団法人として活動することとなりました。公益財団法人に向けての準備にご協力くださいました皆さまに心から感謝申し上げます。

公益財団法人として認定されたということは、埼玉県サッカー協会の事業自体が公益であると認められたということです。私 ども公益財団法人 埼玉県サッカー協会のスタッフは、公益というものをしっかり理解し、今まで以上に公益に適う事業を推進する責任ある立場になったという自覚を持って、事業に邁進する所存です。

公益財団法人 埼玉県サッカー協会が掲げる「われわれは、サッカーを通じて人々に夢や感動を与え、郷土埼玉に豊かなスポーツ文化を育み、地域社会に貢献するとともに、日本サッカーの発展に寄与します」という理念にもう一度立ち返り、明確な目標をもって進んでまいります。

今後とも公益財団法人 埼玉県サッカー協会をご支援いただき ますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 第 1 回、第 2 回理事会開催

● 4月27日 第1回理事会(於:さいたま共済会館)

第1号議案 平成24年度予算(案)

第2号議案 公益目的事業における諸経費の基準に関する

規定(案)

第3号議案 専門委員長・種別委員長の選任について

第4号議案 ミッション特別委員会委員長及び委員の選任

について

第5号議案 事務局長の選任について 第6号議案 常勤役員の報酬について

第7号議案 功労賞候補者

が決まりましたので、各自必要に応じてご確認ください。

新副会長に岡田泉氏(SFA 審判委員長)、新事務局長に坂庭 泉氏(SFA 技術委員長)が選任されました(人事については、 4ページ参照)。

予算、決算につきましては、公式ウェブサイトに掲載しておりますので、ご確認ください。

また、6月25日に、新法人となって初めての評議員会が開催されました。公益財団法人となり、今後、決算については理事会で議決し、評議員会で承認されることになりました。引き続き、SFAへのご支援とご理解を賜りますよう、お願い致します。

#### ● 6月5日 第2回理事会(於:さい たま共済会館)

第1号議案 平成23年度事業

報告

第2号議案 平成23年度決算

書監査報告

主なものとしては、公益法人として謝金などの金銭規定を設ける必要があり、第2号議案において「県協会が主催する会議、大会、講習会、研修会等への派遣を受け、役員活動に携わった者に交通費2,000円を支給することができる」としました。合わせて審判や講習会講師などの謝金



# **功労賞表彰式開催** ~おめでとうございます~

去る6月5日、さいたま共済会館にて、功労賞表彰式が開催されました。28名の皆さんと1チームにSFAからお祝いを差し上げ、ささやかではありますが、祝宴を催させていただきました。皆さん、懐かしい顔と出会えたでしょうか。今後ともよろしくお願い致します。

# 祝辞 ~会長相川宗一~

本日は公益財団法人 埼玉県サッカー協会にとりまして、特別な一日となりました。

本協会は本年四月一日より「公益財団法人」として、新たな一歩を踏み出すと同時に、埼玉県サッカーの振興と発展にご尽力をいただいた皆様方を「功労賞」として表彰をさせていただくことと致しました。その記念すべき第一回目の表彰式にご出席されました皆様方にまず、御礼を申し上げます。

四年前、平成二十年に埼玉サッカーは百年の節目を迎え、同年十一月には盛大な記念パーティーを挙行しました。百年という長い歳月を振り返りますと、埼玉県が「サッカー王国」の名を欲しいままにした栄光の時代が真っ先に思い起こされます。しかし、栄光をつかむ過程におかれましては、皆様方の血が滲むような努力と、サッカーに対する比類なき情熱を傾けられた賜物であろうと存じます。枚挙にいとまがないほどの、幾多のご苦労がおありになったと思います。その歴史に燦然(さんぜん)と輝く、皆様方の功績をここに表彰させていただきます。

貴重なご経験・ご体験をされた皆様方にあらためて「功労賞」をお贈りすることができますのは、埼玉県サッカー協会と致しまして、この上ない喜びとするところでございます。

また、直近におきましても、埼玉県サッカーの発展に寄与されました方々にも「功労賞」をお贈り致します。本日はご欠席となっておりますが、昨年の「なでしこジャパン・世界一」という快挙を成し遂げられた皆様。そして、埼玉に脈々とつながる「日本一」の栄冠を手にされた浦和レッズレディースジュニアユースの選手の皆様につきましては埼玉県民が誇りとするところであります。

本日はささやかではございますが、ご歓談をいただく場を設けております。

最後になりましたが、皆様のご健勝と今後ますますのご活躍 をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

新井	萬作		石澤	君男
浦和レッ	ズレディ	ースジュニアユース	小川	時雄
熊谷	紗希		倉持る	宁三郎
佐々木	則夫		紫藤	實
菅野	一郎		鈴木	嘉三
関口	勝久		戸苅	晴彦
中島	幸雄		長竹	義廣
仲西	駿策		中山	洋
新田	雅男		貫井	進
原田	宏		広羽	良一
藤井	泰光		松本	暁司
丸山	正董		宮田	典男
矢嶋	理子		矢野	喬子
山郷の	)ぞみ		吉川	五郎
吉野	武			



相川宗一会長



広羽良一さん



最年長の原田宏さん



浦和レッズレディースジュニアユース 下山薫監督









小川時雄さん

菅野一郎さん

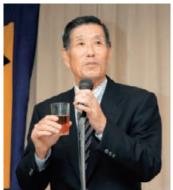
紫藤 實さん

藤井泰光さん









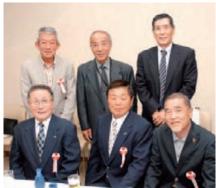
吉川五郎さん

矢嶋理子さん

戸苅晴彦さん

横山副会長









受賞された皆さんと SFA 役員

# 公益財団法人埼玉県サッカー協会・各委員長(平成24~25年度)

#### 専門委員長

フェアプレー・規律委員長 柴﨑 康之 達朗 (新任) 財務委員長 小高 技術委員長 坂庭 泉 審判委員長 田田 泉 広報委員長 荒川 裕治 (新任) 二瓶 省三 施設委員長 医事委員長 鶴岡 明 科学委員長 西川 誠太 総務委員長 利春 松本 (各委員は公式ウェブサイトに掲載します)

#### 種別委員長

1 種委員長	天沼	達也	
2種委員長	森田	洋正	(新任)
3種委員長	柏	悦郎	
4種委員長	秋山	和雄	
女子委員長	矢嶋	理子	(新任)
シニア委員長	大木	正幸	
フットサル委員長	髙橋	昭夫	

(各委員は公式ウェブサイトに掲載します)

#### SFA ミッション特別委員会

委員長	横山	謙三	副会長兼専務理事
委 員	星野	隆之	副会長
委 員	岡田	泉	副会長兼審判委員長
委 員	柴﨑	康之	フェアプレー・規律委員長
委 員	小高	達朗	財務委員長
委 員	坂庭	泉	技術委員長
委 員	荒川	裕治	広報委員長
委 員	二瓶	省三	施設委員長
委 員	鶴岡	明	医事委員長
委 員	西川	誠太	科学委員長
委 員	松本	利春	総務委員長

#### 事務局

事務局長	坂庭	泉	(新任)
事務局員	古市	純美	
	狩野	智津子	
	小豆	澤直登	
	佐々	木亮旦	

# 2012年度JFA47都道府県協会訪問 会議開催

6月16日に、埼玉スタジアムにおいて「2012年度 JFA 47都道府県協会訪問会議」が開催されました。SFA 側は横山、星野両副会長をはじめ、各専門委員会・種別委員会の委員長が出席し、JFAの真田幸明総務部長、漆間亜美香PHQ部員から説明をいただきました。

JFAより説明があったのは2点。「業務プラン2013の進捗状況

とアクションプラン2015の達成に向けて」、「スポンサーシップについて」でした。特に前者においては、登録者数の掌握と拡大に向けた取り組みについての説明でした。

出席された皆さん、お疲れ 様でした。



# 2014 FIFA ワールドカップブラジル アジア最終予選開催

日本代表は、ブラジルに向けての最終予選をここ埼玉からスタートさせました。6月3日にオマーン戦、8日にヨルダン戦と2戦連続で開催され、それぞれ3-0、6-0と内容も含めて圧勝しました。どちらも比較的早い時間帯で先制することができ、幾度となくビッグチャンスが訪れ、観客の皆さんには楽しんでもらえた試合になったと思います。続く、アウェイでのオーストラリア戦は1-1のドローとなりましたが、いいスタートを切ったのではないでしょうか。

1年がかりの最終予選ですので、いろいろなことがあるでしょうが、常にベストを尽くして試合に挑んでもらいたいものです。また川島永嗣選手だけでなく「埼玉産」の選手が一人でも多く、日本代表の一員として活躍してくれることを期待しています。

初戦のオマーン戦は、63,551人もの観客の皆さんに集まっていただき、埼玉スタジアムの新記録を打ち立てました。9月11日には埼玉スタジアムで元日本代表監督であるジーコ氏率いるイラクと対戦します。また多くの県民の皆さんに観戦していただきたいと思っています。

# 2002 FIFAワールドカップ 10 周年記念 ~日韓交流サッカー(U-10)ファイナルステージ~ 開催

7月1日に日産スタジアムにおいて、2002年 FIFA ワールドカップ 10周年記念 JFA サッカーフェスタが開催されました。そのイベントの一つとして、「2002FIFA ワールドカップ 10周年記念 ~日韓交流サッカー (U-10) ファイナルステージ~」が開催され

ました。開催県を代表して、秩父・花の木サッカースポーツ少年団の子 どもたちが出場しました。楽しかっ たでしょうか? お疲れ様でした!





# "Live Your Goals" Girls Festival 中学校女子サッカー部フェスティバルに参加して

去る4月3日から4日間、J-Green 堺において「"Live Your Goals" Girls Festival 中学校女子サッカー部フェスティバル」が開催されました。全国から8チームが参加し、県内からは、さいたま市立原山中学校と富士見市立西中学校の生徒たちが参加しました。トレーニングだけでなく、なでしこジャパンとブラジル女子代表の試合を観戦するなど、いい経験ができたようです。







(写真提供/丸山丁士)

# 「驚くほどボールを蹴ることができるよう になりました」

さいたま市立原山中学校 女子サッカー部監督 長谷川百合矢

一番の収穫は、とてもよい環境でボールを蹴ることができたことです。普段はグラウンドの端を使っていますので、パスやシュートの練習ではイレギュラーが多く、なかなか精度を求めることが難しいのですが、多くの生徒が人工芝の上でロングキックの感覚をつかんで帰ってきてくれました。驚くほどボールを蹴ることができるようになりました。

生徒9人に指導者が1人という割合で指導をしていただきました。わかりやすくかつ、とにかく誉めていただけたので、生徒たちは気持ちよく練習に参加していたのが印象的でした。また、空き時間にも気さくにアドバイスをしていただいたことは、生徒たちにプラスでした。個人的に、私は誉めることが不得手なだけに、コーチングの声がけは参考になりました。

今回、私は1日だけの帯同でしたので、保護者の方々にコーチとして参加していただいたところ「今まで以上にサポートをしたい」と申し出ていただくなど、意識の高くなったことはとてもありがたいことでした。トレーニングメニューだけでなく体調管理の仕方なども指導していただいたことも、とても有益でした。

ほとんどの生徒たちは「浦和」という土地柄、Jリーグなど 男子の試合の観戦はしているのですが、なでしこジャパンの 選手たちのプレーを間近に見ることは初めてでした。その球 際の強さ、声の大きさ、パスの正確性など、かなり影響を受 けたようです。

「ロングキックが飛ぶようになった」「パスをもらった後、自分が次のパスを出しやすい位置にコントロールできるようになった」「パススピードが速くなった」「一生懸命やって、サッカーを楽しむことを学んだ」「サッカーを自分からやるようになった」。これらは生徒たちの声の一部ですが、本当に楽しかったようです。

原山中学校の活動が今後の女子サッカーの発展に少しでも 貢献できればと考えています。また、中体連の大会が無い中でもがんばっている女子生徒が希望や目標を持って参加できる この企画を続けていただければと思っています。ありがとうございました。

# 「あっという間の4日間。 大人になったような気がします」

富士見市立西中学校 サッカー部監督 丸山 丁士

富士見西中サッカー部は、現在54名の部員がいます。うち20名が女子です。隣の富士見台中からも2人来ています。技術的に男子と同等にできるのは1名いますが、彼女はジェフ千葉レディースに所属しているので、そちらを優先して活動しています。

女子部員を受け入れ始めたのは、今の3年生が入学したときからです。それまでも毎年一人くらい「女子はダメですか?」と聞いてくる生徒がいたのですが、あの年は12名も希望者があり、認めることにしました。ちょうど私自身、SFA審判委員会の女子担当となったこともあり、偶然ではありますが巡り合わせを感じました。ただ、女子の指導経験は無かったものですから、元エルフェン狭山の監督をされていた、当時飯能・美杉台小学校の校長でいらした佐藤さん(仁威氏)にお願いして、週に一度指導していただきました。昨年から、県U-15リーグに参加させてもらい、活動を続けているところです。

私も4日間帯同しましたが、子どもたち誰もが「帰りたくないです」と言うのです。堺のきれいで恵まれた環境を経験できたこともありますが、これまで合宿の経験も無かったものですから、得るものが本当に多かったと思います。

技術的にはとにかくコントロール、キックという基礎を学びました。パスをつなぐ意識も高くなりました。また周りも見えるようになり、積極的に楽しんで練習することを学んでくれました。同時に、ナショナルトレセンのスタッフの皆さんから「時間を大切に」と事ある毎に言われたことで、サッカーに取り組む自覚が出てきたようです。あっという間の4日間でしたが、大人になったような気がします。今では、男子と同じメニューでトレーニングしていますし、男子相手にトレーニングしています。まあ、男子の方が恥ずかしがっているようですが(笑)。練習を見ていると、男女ともいい意味での相乗効果が出ているようです。これからも楽しみです。



# 「埼玉を強くしたい」

# 河本 弘 🗙 田中龍太郎

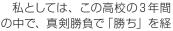
県高体連サッカー専門部長 (大宮東高校・校長) 県高体連サッカー専門委員長 (大宮南高校)

今年度、田中龍太郎氏が県高体連サッカー専門委員長に就任されました。そこで、SFAで長く強化対策委員長を務めていただいた河本弘・県高体連サッカー専門部長と、埼玉の高校サッカーの現状とこれからを語っていただきました。

## 「勝ちにこだわってほしい」(河本)

―ご多忙のところ、お集まりいただき、ありがとうございました。 早速ですが、まずはお二人から、埼玉の高校サッカーの現状を どう認識されているのかをお聞かせください。

河本 サッカーというのは、攻撃側から守備側になった場合、相手のボールホルダーにプレッシングをかけていきます。基本的に守備側が数的優位でいれば、点を取られることはないのです。攻撃においては、ポゼッションをしながら、フィニッシュに持って行く力、形があるのが理想です。しかし、こういうサッカーがなかできないのが現状です。





河木 引氏

験させることにこだわって欲しいと願っています。サッカーそのものはつまらないかもしれませんが、いいサッカーというのは、将来経験できることです。もともと勝ち負けを決めるのがスポーツですから、勝ちを求めずにやってはいけないと思います。ですから、顧問の皆さんには、生徒たちの心に火をつけていただきたいのです。

というのは「勝たせたい」という思いから、顧問の皆さんは練習の中で戦術や技術の向上を求めていると思いますが、この「勝ちたい」という思いを本当に理解しているのでしょうか。真剣勝負の試合の中では、練習でやっていたこととは違うものが出てくるものです。そういうときに、選手にどう判断させ、何を求めているのでしょうか。

80分走りきるのは当たり前です。その上で指導者は生徒たちに、冷静なメンタリティと強いフィジカルを求めているのでしょうか? どう勝負を意識させているのでしょうか? そういうことを感じさせてくれるチームは本当に限られています。勝負にこだわっているチームが増えれば、その厳しい環境の中で高い技術が求められると思うのです。そして、そこから日本代表選手が出てくるのです。

現状では、これらを求めていくことは難しいと思います。顧問の皆さんはサッカーの楽しさや勝つ喜びなど、伝えたいことはたくさんあるでしょう。しかし、この3年間終わって、生徒たちに何が残っているのでしょうか。私としては、生徒たちに勝負の厳しさを知り、さらにサッカーを続けていってほしいと願っています。3年間終わっても「まだまだ伸びる」「まだまだ上手くなる」という思いを持っていて欲しいのです。

田中 ありがたい言葉ですね。

河本 我々の頃は、浦和の高校が本当に強かった。結果として、高いものを求めていました。故池田久先生が「埼玉は強くないといけない」とおっしゃっていましたが、そういうことも思わせることも大事だなと思っています。ヨーロッパ選手権を見ていても、どの国の選手も「俺たちのサッカーが一番だ」というプライドを持ってプレーしています。そういう思いを、全国優勝を経験した人が伝えていってほしいのです。

## 「もっとコミュニケーションを」(田中)

田中 ありがとうございます。先日、埼玉新聞のコラムに「勝利へのこだわり」と書いたのですが、河本先生がおっしゃった「勝ちへのこだわり」に繋がっていることをうれしく思っています。

それで現状というか……昨年、インターハイ予選も選手権予選も、決勝は浦和東と武南の対戦となりました。どちらも浦和東が勝ったのですが、野崎さん(正治氏)から「大山先生(照人氏)と話をしたいから、一緒に食事に行こう」と誘われました。野崎さんとしては、大山先生から「どうやれば勝たせることができるのか」を聞きたかったんですね。その場で二人は、それぞれの準決勝、決勝で何をしたのか、何を考えていたのかを話しました。「あのときはこう考えていた」「あそこでは、こんなことも考えていた」……と。そのやりとりを聞いて、自分はまだまだだなと思いました。現状では埼玉のトップの二人です。その二人が半年前から、いや3年間をかけてどう準備しているのか。ゲームの戦術だけでなく、野崎さんであれば1年生のときからお弁当のチェックをするなどして、逆算して育てています。でも、まだ選手権で勝てていません。

そこで、まだ企画の段階ですが、埼玉の代表チームが全国で勝てるよう、指導者間で、もっとコミュニケーションをしていこうと考えています。手の内を教えるというのは、教えた方はその上を行かなければいけませんから、本当に大変なことです。その第1回目の講師として野崎さんにお願いしようと思っています。チーム作りの考え方や具体的なトレーニングなど、浦和東だけの秘密にするのではなく、県内の指導者の皆さんに幅広く聞いていただきたいと考えています。それで刺激を受けていただければ幸いです。次には大山先生や、守屋さん(保氏・西武台)にも出ていただきたい。自分が聞きたいからではないですよ(笑)。「ここまでやるんだ」というのを知ってほしいのです。それで埼玉全体のレベルが上がればいいのです。繰り返しになりますが、教える方はさらにレベルアップしなければいけません。だから「勝ちにこだわる」必要があるのです。

先日、選手権の反省会のときに横山専務理事に「埼玉の高校 サッカーを復活させるにはどうすればいいのか」とお聞きしまし た。若手の指導者の育成だとおっしゃっていましたね。この講習 会には、3種の指導者にも声をかけたいと思っています。今、県 中体連の専門委員長が武南の後輩でもある谷地田くん(昌史氏・ さいたま市土呂中)なので、3種との交流をしたいと考えていま す。2種だけがんばっても繋がりません。また、3種には4種と もっと交流してほしいですね。

―SFAとしても、2種の若手指導者講習会を行ってきました。 Jリーグの監督経験のある指導者の皆さんを招いてディスカッション方式でやっていたのですが、出席率が悪かったようで、昨年度は開催されませんでした。

田中 レベルが違い過ぎたと思います。講師の皆さんはプロですよね。こちらは学校の顧問ですから、環境も違います。やはり、 県内の指導者は、県内でどうしたのかを知りたいですし、それを 学びたいと思っています。また、県内の指導者だと近い存在という意識もあります。

## 「あれは高体連にしかない"美学"」(河本)

#### ---リアリティが無かったということでしょうか。

河本 いや、サッカーだけのことを考えたら、もう高体連は主 力ではありません。これまで続いている学校体育の中で行われ てきたサッカーでしたが、プロ化されて環境が変わりました。そ して、世界に通用する仕組み、文化ができつつあります。ときど き、日本のサッカーにおいて、高体連は邪魔な存在なのではと 考えることがあります。なぜならば高体連には制約が多いからで す。しかし、今年の選手権で市立船橋が優勝しました。あのと き、試合に出られない3年生が、試合に出る選手たちに「同じ気 持ちで戦っているぞ」と声をかけていましたが、あれは高体連に しかない"美学"です。この美学を追究しながら、技術も追求で きれば高体連にも価値があると思うのです。そこに賭ける情熱、 こだわりを堀り下げていくしかないのです。

もうこの年代のサッカー環境は、序列化されていることを認 めるべきです。やはり、指導者にはプロのスタッフがいることが 理想です。でも、高体連としては、文化として根付いているもの を根幹として、サッカーを通じての人間形成、そして勝利へのこ だわりを求めていきたいものです。そのためには、この年代でも 大人と同等のことをしないといけないのです。

---高体連、街クラブ、そしてJクラブと、子どもたちにとっては 選択肢が増えているということですね。その子どもたちですが、 香川や本田、長友に続きたいと4種年代から「世界」を意識し始 めています。

田中 先日のオマーン戦を、森田 さん(洋正氏・川口北高校)と一 緒に観ていましたが、日本のスタ メン発表の際、選手の所属のほ とんどが海外のチームでしたね。 僕らは「ダイヤモンドサッカー」 を観て育った世代ですが、あのと き観ていたブンデスリーガのチー ムに所属している選手があんなに 出てくるとは。森田さんに「時代 は変わりましたね」と言ったんで す (苦笑)



田中龍太郎氏

河本 2種では「世界」という話 はなかなか出ませんね。夢と現実をわかってきた年代だからでし

ただ、私などは年齢を重ねることで、未だサッカーに関わって いられる喜びを感じています。今、シニアが脚光を浴びていま すが、いきなりシニアにはならないんですね。続けていくからシ 二アの年代になってもサッカーができるのです。ずっと、サッカ 一の深みを学んできているんですね。その深みの部分に関して は、まだ日本はプロができて20年。これからさらに続けていく ことで、歴史的な話が出てくるのです。それが深みとなり、また サッカーの楽しさを増してくれるのだと思いますね。だから、高 校生にならないとわからない話もあるのです。

でも、指導者としては、教え子が世界に出て行ってくれること は夢ですね。

田中 「海外」という夢は、本人が思っている分ではいいと思いま す。僕らとしては、現状からいって「今、やるべきことをやれ」と 言うしかないですね。野崎さんだって、永嗣(川島永嗣・リールセ) が、あそこまでになるとは思っていなかったと思いますよ。まず は、人として世界でも通用する人材になって欲しいという願いは あります。

河本 今、万人が「監督」になっているじゃないですか。特に保 護者の皆さんですが。だから、自分たちの試合だけでなく、「サッ

カー」を生徒や保護者の皆さんに話すことが必要かなと思って います。サッカーの奥深さや歴史的なことをね。私自身、昔あ った「プライドオブ埼玉 | を経験させてもらった一人です。今も 持っています。それが情熱になっています。今の生徒たちには高 校時代に、その思いを味わわせてあげたい。だから欲しいのは、 結果なのです。

田中 これは、私的な思いですが、選手権で優勝した翌年、私 ともう一人で優勝旗の返還に行きました。チームとして"全国" に行けなかったことは寂しいもので、以来、そこにこだわってい るんです。確かに「世界」もあるけれど、埼玉県を強くしたいん です。埼玉に育ててもらって、優勝も経験させてもらったんです から。

## 「別にプリンスリーグにチームを出さなくても いいかなと」(田中)

―そういう思いを伝えていかなくてはいけませんね。

河本 感じてほしいよね。

そう、今年のSリーグ(U-18リーグ) は楽しみですね。高校 が全部揃っているから本当に楽しみです。いろいろと制約がある 高体連ではありますが、リーグ戦は必要です。そのためには多 くの関係者の皆さんに理解していただくことが大切です。校長と いう立場から言うと、学業のこともあるのです。でも、3年間の 中でサッカーを楽しんでほしいですし、同時に覚悟もしてほしい のです。

田中 その延長にある今年の埼玉の代表は楽しみです。県内で 相当、切磋琢磨しています。ここで勝ち方を覚えて、全国大会 に行ってくれればと思っています。プリンスリーグに行くと、ど うしても負け慣れてしまうようなんですね。

河本 負け続けると、メンタル部分で幼さが出てしまうのでしょ う。でも今年は、どのチームも勝つことに飢えています。

田中 今年、この流れで埼玉の代表が全国で優勝したら、「これ」 でいいかな」と思っているんですよ。別にプリンスリーグにチー ムを出さなくてもいいかなと。

河本 信じてもいいですね。今年はチャンスです。結果が出れば、 それでもいいんですよ。エリート養成としてプリンスリーグは必 要でしょう。「あそこまでやれるんだ」というステージを用意す ることは大事だと思います。しかし、チームにも個人にも参加す る、しないを選択する自由もあるのです。

田中 来年度から、リーグや各種大会のやり方を変えていこう と思っています。今年の結果も楽しみですが、来年度またどうな るかも楽しみなんです。これで今よりも悪くなったら、部長と一 緒に辞めさせてもらいます(笑)

河本 自由にやってください。お任せしていますから(笑)

---県内にいてレベルアップできれば、言うことはありません。い い取り組みを期待しています。本日は、ありがとうございました。



# JFAプレミアカップで、惜しくも準優勝!

# ~大宮アルディージャジュニアユース 伊藤彰監督に聞く~

### 「日本で勝つだけではなく、

## 世界で戦える人材を育てていきたい」

昨年の高円宮杯(U-15)に出場でき、ベスト8に入りました。 この高円宮杯が、プレミアカップの予選も兼ねており、昨年の12 月時点で出場できる可能性はわかっていました。実際には2月9日に、高円宮杯で準優勝した柏レイソルとの代表決定戦で、1-0で勝利し、出場権を獲得しました。

今回、アルディージャの育成組織としては、初めて全国大会の決勝に進むことができました。一つ、"壁"を破ることができたことをうれしく思っています。それも3日間で5試合、それも負けたら終わりというトーナメントでしたので、チームとしても選手個人としても経験値が上がりました。実はその翌日は戻ってすぐに、浦和レッズさんとの関東リーグがあるというハードスケジュールでしたが、選手たちはよくやってくれました。

決勝に向けて、私自身は緊張していなかったのですが、選手たちは冷静さを失っていました。私としては、選手たちからプレッシャーを取り除く能力を持たなければいけません。常に冷静になって、プラン通りにプレーできるかどうかというのが、課題として見えたことです。実は初戦も過緊張していたのですが、その後の

試合では落ち着いていたんです。それが決勝はやはり違ったので しょうか。私自身、人心掌握としてモチベーションを上げさせる 指導が必要だと感じました。

決勝ですが、ガンバ大阪さんはパワフルでした。チームとしての力は歴史の差だと思いました。ただ、我々が続けてきたポゼッションサッカーは多くの方々に評価していただきました。実際には1-4となりましたが、大差となる力関係では無かったと思います。ただ今回の結果についてはガンバ大阪さんの力をリスペクトし、次の機会にリベンジする目標を持てたことがよかったと思っています。

全体的に我々としては、個と組織が機能したサッカーができました。これは、今のチームの成果だけではなく、これまでやってきた10年の成果です。特に今の3年生は、ジュニアを立ち上げたときの一期生です。今後も、世界のトレンドをいち早く子どもたちに浸透させることで、日本で勝つだけではなく、世界で戦える人材を育てていきたいと思っているところです。

## JFAプレミアカップ2012 supported by NIKE

5月3~5日 J-GREEN堺

決勝

ガンバ大阪ジュニアユース 4-1 大宮アルディージャジュニアユース

# 「ダノンネーションズカップ2012 in JAPAN」、「JA全農杯チビリンピック」ともに優勝!

## 「勝利は埼玉で揉まれたことで生まれたパワーから」

2004年にスクールという形で始め、「大会に出たい」という子どもたちの声に促され登録して、まだ10年になりません。このような成績を残せるようになったのは、ここ数年です。振り返れば、行った先々で、他のチームから「レジスタってどこ?」と言われた子どもたちが自分たちから「誇りを持てるチームにしたい」と言い出したしたからでしょうか。正直、私自身、子どもたちの取り組みを見て「真剣にやらなくては」と思ったものです。

これまでの指導の中で思うことは、「継続する力」を持たせることが大事だということです。サッカーそのものを継続する力はもちろん、「やるからには勝ちたい」という思いを持続させること、それも自発的にできるようになるかが大事だと思うのです。

セレクションはしていないものですから、個々の力量には幅があります。ですから料理に例えると、最初から作るものを決めてかかるのではなく、一人ひとりの「素材」を見て、何を作るか、どうするかを判断するようにしています。特徴を見て、その子の将来を描き、そこから逆算して今、何が必要か、です。ですから、その子にとって、そのときそのときで必要なことを伝えるよう努めていますし、できる子にはちょっと上のレベルを求めていますね。あとは大会に臨む際には、前年の試合の映像を見せて「これ以上、やってみよう」と働きかけています。出た選手も残っていますし、気持ちの部分も大きいと思いますね。

さて結果ですが「ダノンネーションズカップ2012 in JAPAN」は、子どもたちの能力に驚きました。「世界大会に出たい」という思いを持って初めてトライしましたが、こんなに集中できて、パワーを出せるものかと思ったものです。

「JA全農杯チビリンピック」(8人制)は、本大会以前に関東大会がありました。同じ組に東京都1位の府中新町FCさんがいましたが、初戦でヴァンフォーレ甲府と対戦して引き分けたことでリズムを崩してしまったようです。府中新町FCさんがうちとの試合が初戦だったら、また変わっていたかもしれません。そうい

# ~レジスタFC 金杉伸二代表に聞く~

う巡り合わせのよさもあり、本大会に出場できたと思います。本大会を振り返ると、12分×3ピリオドの試合に登録メンバー16人全員が出場するのですが、この年代はある水準を満たした子どもが16人以上いてくれたことで成し遂げられた優勝だと思います。一人、二人くらいが突出していても勝てる大会ではありません。

どちらにも言えることですが、埼玉で揉まれたことで生まれたパワーはすごいと思っています。埼玉に感謝すると同時に、今後もいい指導をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

#### ダノンネーションズカップ 2012 in JAPAN

3月31日、4月1日 駒沢オリンピック公園

**決勝 レジスタFC 2** - 0 セレッソ大阪U - 12

※優勝したレジスタFCは9月にポーランドで開催される世界大会に出場する。

#### JA全農杯チビリンピック

5月4日、5日 日産スタジアム

決勝 レジスタFC 3-0 シーガル広島

(写真提供/レジスタFC)



JA全農杯チビリンピック優勝

# 大会結果

~詳細は各連盟のホームページをご覧下さい~

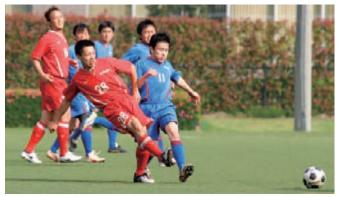
#### 1種

#### 第2回1種選手権大会

決勝 3月18日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 パイオニア川越 6-3 ACアルマレッザ飯能

#### 第41回全国自治体職員選手権大会 埼玉県予選

決勝 5月26日 堀崎公園サッカー場 さいたま市 2-0 所沢市



決勝 さいたま市 vs 所沢市

#### 2種

#### 高校サッカー関東大会埼玉県予選

決勝 4月29日 埼玉スタジアム第2グラウンド 武南 4-3 正智深谷 (延長)

※武南は10年ぶり16回目の優勝



決勝 武南 vs 正智深谷

#### 高校サッカー関東大会埼玉県予選報告

埼玉県高体連サッカー専門部技術委員 山崎 稔(入間向陽高校)

4月14日から29日にかけて栃木県で行われる関東大会の出場をかけた平成24年度最初の公式戦が行われた。

今年は高体連から関東プリンスリーグに出場していないために真 の埼玉のチャンピオンを決める大会となった。

その激戦のなか、出場権を獲得したのは優勝した武南高校と準優勝の正智深谷高校であった。決勝戦は攻守の切り替えが速く、スピード感溢れる試合を展開し、見ごたえのある試合となった。

武南は勝ち上がるにつれてチーム状況が上向きになり、試合を重ねて仕上がっていった印象がある。昨年よりレギュラーの鈴木を中心にリズムよくボールを動かし、両サイドハーフを高い位置に張らせピッチを大きく使いサイド攻撃を仕掛け、特に左サイドの室崎を絡めた攻撃は破壊力がある。守備も選手を入れ替えて安定感が増した。CBの三浦の高さは攻守に存在感を示していた。試合を通してチームを成長させた大山監督は、本大会に向けて更なるレベルアップをしてくると思われるだけに楽しみである。

正智深谷は浦和東戦こそ自分たちのサッカーが出来なかったが、少ないタッチ数でボールを動かしサイド攻撃を仕掛けるサッカーは見応えがあった。中盤の木暮、清水が攻守の中心で豊富な運動量で中盤を構成し、ゴール前の多彩な攻撃力は質の高さを感じさせた。小島凌、オナイウなどのスピードに乗った攻撃は質が高い。守備も安定しておりその中心は CB の小島圭貴で高さがあり、リーダーとして守備を統率し、チームをまとめていた。

出場権を獲得した2校に準決勝で敗れたのは、新人戦王者の西武台高校と浦和東高校だ。

西武台高校は攻守にタレントが揃っている。最終ラインからパスをつなぎ、小布施にくさびのパスを繋ぎサイド攻撃を仕掛ける。両サイドの選手の速さとゴール前での数の少ないタッチ数でのパス交換、またアイディア豊富な攻撃力は全国の舞台で見たいものだ。さらに、垣内・川又を中心として守備陣も高さや1対1も強く安定している。

浦和東高校は新チームのスタートの遅れが原因なのかチームとしての完成度は低いという印象があった。それでもベスト4に勝ち上がってくるのはさすがとしか言いようがない。よく鍛えられた体で、前線からの厳しいプレス、1対1の守備力やヘディング力は準決勝で対戦した正智深谷を圧倒し形を作らせなかった。特にCB大場の身体能力には高いものを感じた。

西武台、浦和東ともに力があるチームだけに総体に向けてどのように仕上げてくるか非常に期待が持てる。

上位には進出は出来なかったが、本庄第一のサッカーに質の高さを感じた。攻守の切り替えが速く、非常にアグレッシブなサッカーを展開する。攻撃から守備への切り替え時のファーストディフェンダーの決定が速く、他の選手もしっかりとしたポジションを取り、役割を明確にしてチームとして守備をしていた。攻撃への切り替えも速く、少ないタッチ数でボールをつなぎ多くの選手が関わって攻撃を仕掛けてくる。攻守共に質の高さを感じた。課題はそのサッカーを一試合通して行えるスタミナだと言う印象を受けた。

全ての試合を観戦したわけではないが、県予選に出場しているどのチームも非常に守備の意識は高いと思う。FWの選手でも常に守備の意識を持って試合に臨んでいるように感じた。守備への切り替えの速さや3ラインのブロックの形成などはよくトレーニングをされているようだ。しかし、中には選手の役割が明確になっていなかったり、正しいポジションがとれていないため、ボールの奪いどころでしっかりと奪えない場面が多く見られた。そこが上位に進出するチームとの大きな差だと思う。

また、球際の激しさやヘディングの競り合いもよく意識はしているが、手が多く使われている場面が見られた。試合の流れを左右する状況も見られたので、埼玉全体の質の向上という部分から見れば正しい技術を身につけさせる指導の必要性も感じた。

また大会初日は雨天の中、非常にグラウンドコンディションが悪いなか試合が行われた。しかし、そのような中でしっかりと、蹴る、 運ぶ技術を身につける必要性も感じた。

代表になった武南高校と正智深谷高校には、栃木の地での活躍 を期待したい。

### 学校総合体育大会 兼 全国高等学校総合体育大会 埼玉県予選

決勝 6月24日 埼玉スタジアム第2グラウンド 武南 0-2 西武台

※西武台は2年ぶり5回目の優勝、高校総体は2年ぶり8回目の 出場。武南は2年連続19回目の高校総体出場。



優勝 西武台高校



準優勝 武南高校



高校総体予選決勝 西武台 VS 武南

#### 第55回関東高等学校サッカー大会

6月2日~4日 栃木県グリーンスタジアム他

A グループ

1 回戦 矢板中央 1 - 2 武南 準決勝 藤沢清流 1 - 0 武南

Bグループ

1 回戦 水戸啓明 0 - 8 <u>正智深谷</u> 準決勝 <u>正智深谷</u> 4 - 1 船橋北

決 勝 共愛学園(群馬) 1-3 正智深谷

※正智深谷は3位入賞した



Aグループ1回戦 武南 VS 矢板中央



準決勝 武南 VS 藤沢清流



Bグループ1回戦 正智深谷 VS 水戸啓明



準決勝 正智深谷 VS 船橋北



決勝 正智深谷 VS 共愛学園

#### 3種

#### 第27回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会・ 埼玉県予選

決勝 6月10日 NACK5スタジアム大宮 FC KASUKABE 2-0 HAN FC ※上位7チームが関東大会に出場

## 4種

#### 第36回全日本少年サッカー大会埼玉県予選

決勝 6月17日 埼玉スタジアム第2グラウンド新座片山FC 3-1 江南南サッカー少年団A (延長)



決勝 新座片山FC VS 江南南サッカー少年団A



優勝 新座片山 FC

#### 女子

#### 第17回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

決勝 4月30日 越谷しらこばと陸上競技場 エルフェン狭山マリ 1 — 0 大宮FCエンジェルス05

#### 平成24年度学校総合大会埼玉県大会

決勝 5月12日 本庄第一高校 本庄第一 2-1 久喜 ※優勝した本庄第一は関東大会に出場



決勝 本庄第一VS久喜

#### 第1回関東高等学校女子サッカー大会

6月2日~4日 栃木SC宇都宮フィールド他 1回戦 本庄第一 3-0 鹿島学園 準決勝 本庄第一 1-4 湘南学院 ※本庄第一が初の高校総体に出場する



1回戦 本庄第一 VS 鹿嶋学園



準決勝 本庄第一 VS 湘南学院



本庄第一高校

## 第32回埼玉県女子サッカー大会(一般の部)

決勝 6月24日 埼スタ第3グラウンド 大東文化大学 8-1 久喜高校 ※優勝した大東文化大学は関東大会に出場する



決勝 大東文化大学 VS 久喜高校

#### 第32回埼玉県女子サッカー大会(レディースの部)

決勝 6月17日 上里宮グラウンド FCB.B 6-0 上里女子FCパワーズ ※上位3チームが関東大会に出場する

#### ガールズサッカー埼玉カーニバル2012

決勝 6月17日 さいたま市八王子サッカー場 埼玉県南部地区トレセン 1 - 0 埼玉県北部地区トレセン (延長)

#### シニア

#### 埼玉スーパーシニアロー70サッカー大会

5月23日 埼玉スタジアム

埼玉県(パルス) 6-2 群馬県 埼玉県(パルス) 4-1 神奈川県 埼玉県(混成) 2-0 千葉県 埼玉県(混成) 3-1 神奈川県





写真提供: 県シニア連盟

#### 第12回全国シニア(60歳以上)サッカー大会

準決勝 5月28日 藤枝総合運動公園

埼玉シニア 60 0 − 1 浜松怪童クラブ

※優勝は浜松怪童クラブ

#### 全国シニア(70歳以上)サッカーフェスティバル

5月26日~28日 藤枝総合運動公園 Bグループ

埼玉シニア 70 2 - 0 清水 埼玉シニア 70 5 - 1 熊本

埼玉シニア70 6-0 函館

※埼玉シニア70がグループ優勝

#### フットサル

#### 第28回全国選抜フットサル大会関東大会

5月20日 山梨県小瀬スポーツ公園体育館

Bブロック代表決定戦

<mark>埼玉県 4−4</mark> 群馬県 (5PK6)

※関東代表は山梨県と群馬県

## インフォメーション

#### ● 2012 FIFA U-20 女子ワールドカップ、開催

8月19日より「2012FIFA U-20女子ワールドカップ」が日本で開催されることになりました。埼玉でも、新装となった浦和駒場スタジアムで8試合が開催されます。

8月19日 15:00 ブラジル vs イタリア

18:00 ナイジェリア vs 韓国

8月22日 15:00 ブラジル vs ナイジェリア

18:00 イタリア vs 韓国

8月27日 16:00 中国 vs ガーナ

19:00 カナダ vs 北朝鮮

準々決勝

8月31日 16:00 グループD1位 vs グループC2位

19:30 グループC1位 vs グループD2位

また、オフィシャルスローガンが、「HOPE LEADS.」(日本語表記:「希望が、みちびく。」)に決定しました。ぜひ、駒場に足をお運びください。

#### ●JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル 2012 開催

5月20日に、埼玉スタジアム第3グラウンドにおいて、「JFAキッズ (U-6) サッカーフェスティバル2012」が開催されました。57チーム、840名の子どもたちが元気にボールを追いかけてくれました。芝の上でのサッカーはどうでしたか? ぜひ、もっとサッカーを好きになってください!







#### ● SFA 公式ウェブサイトがリニューアルしました!

長年、SFAの顔として親しまれてきたSFA公式ウェブサイトが、この4月からリニューアルしています。今後は、「SFA NE WS」も合流し、県内の様々なサッカー情報をお知らせしてまいります。今後ともよろしくお願いします!

http://www.saitamafa.or.jp/

#### ●平成 24 年度 市町·種別審判委員長会議開催

7月1日、さいたま市民会館うらわにおいて、「市町・種別審判委員長会議」が開催されました。全県から41名が集い、岡田泉委員長からの全国審判委員長会議報告、FIFAから通達のあった競技規則の説明(http://www.jfa.or.jp/match/rules/pdf/law\_soccer\_120624.pdf)、SFA審判委員会内の競技部、指導部、インストラクター部、そしてフットサル・ビーチサッカー部から活動報告がありました。

全国的な大きな課題として、審判員のモラル向上が訴えられました。19,000人強と全国の約12万部の1にも匹敵する審判員を抱える埼玉県としても、一人ひとりの更なる自覚が求められました。またSFAとしては、女子のゲーム増に伴っての女子審判の増加と若い審判員の育成が急務と掲げられました。

競技部からは「実働としてあと100名は必要」という具体的な話も出ました。またインストラクター部からは「各市町FAにインストラクターを一人配置したい」という目標を引き続き掲げられました。

グループワークでは、各市町協会における委員会活動の状況が話し合われ、やはり市町協会内で1種から女子、シニア、そしてフットサルの連携が求められました。

#### ●駒場スタジアムの名称が変わりました

~浦和レッズオフィシャルウェブサイトから抜粋~

浦和レッズは、3月30日に、さいたま市が所有する「駒場運動公園競技場及び補助競技場」のネーミングライツ(命名権)を獲得することでさいたま市と基本合意しておりましたが、6月1日、正式契約を締結しました。

今般のネーミングライツ契約の締結が、スタジアム機能の維持・向上に繋がると共に、サッカーをはじめとするスポーツの振興と「サッカーの街・浦和」の活性化に結びつくよう、さいたま市と連携を密に取り組んで参ります。

#### 【スタジアムの新しい通称】

競技場:日本語表記 「浦和駒場スタジアム」

英語表記「URAWA KOMABA STADIUM」

| 棚競技場:日本語表記「レッズハートフルフィールド駒場|

英語表記 「REDS HEART-FULL FIELD KOMABA」

【契約締結日】2012年6月1日

【契約期間】2012年6月1日~2015年3月31日

【新しい通称の使用期間】契約期間と同じ

※7月15日(日) には、リニューアルオープン記念イベントが開催されます。詳細は、http://www.urawa-reds.co.jp/まで。

# 編集後記

- ●暑さの夏が近づき、熱い戦いを予選で行われ、 全国優勝の厚い壁に向かっていることと思いま す。「あつさ」に負けないで頑張って下さい。(坂 庭)
- ●6月中旬、数時間のうちに左足を5ヶ所も蚊にくわれました(T\_T)。夏はまだまだだと思って油断していました。早急に蚊対策をしなければ!(こいち)
- ●決算もW杯予選2試合も終わり、少しだけー
- 息ついています。義兄が代表戦を観に行った話になって、いつ来たの? と聞いたら、オーストラリアへ出張があり急遽現地観戦を!アウェイだったとは……。(かのう)
- ●最近よく「太った!?」と会った瞬間にストレートに言われます。ただ、まれに「痩せた?」と言っていただける方、ありがとうございます。(小豆澤)
- ●夏です! 色々な場面で飲み会が多くなるこ
- の時期ですが、お酒に呑まれないよう要注意! と自分に言い聞かせている今日この頃です… …。早速先日呑まれてしまいましたが(笑)。 (佐々木)
- ●髙橋事務局長、栗島さん、宮田さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。とはいえ、今後ともご指導ください。よろしくお願いします。(荒川)